

## 平成 14 年度動物衛生研究所試験研究成績・計画検討会の概要について

平成 15 年 1 月 7 日～ 17 日に、平成 14 年度動物衛生研究所試験研究成績・計画検討会が行われた。日程は以下の通りである。

- 1 月 7 日：疫学研究部
- 8 日：感染症研究部
- 9 日：免疫研究部、生産病研究部
- 10 日：安全性研究部、プリオン病研究センター
- 14 日：生物学的製剤センター、企画調整部
- 15 日：海外病研究部、北海道支所
- 17 日：九州支所、七戸研究施設

本所の各研究部・センターにおける全研究課題の評価は、その長と構成する研究員及び畜産担当理事、企画調整部長、総合防疫研究官、研究部長、センター長が検討会に出席し活発な討議を行った上、その結果を踏まえて各担当長が取りまとめた。海外病研究部、各支所及び七戸研究施設においては、本所と同様に研究員の出席の下、海外病研究部長、各支所長、七

戸研究施設長が検討会を主催し、海外病研究部においては山口感染症研究部長が、北海道支所においては山本疫学研究部長、横溝免疫研究部長が、七戸研究施設においては山本疫学研究部長が、九州支所においては福所海外病研究部長が、それぞれ本所から出席して行われた。また、外部助言者として、海外病研究部においては動物医薬品検査所・牧江第一部長、日本大学三浦教授、九州支所においては、鹿児島大杉村教授を招き、助言を頂いた。

各検討会における参加者数及び評価課題数は、企画調整部 21 名、2 課題、疫学研究部 22 名、13 課題、感染症研究部 36 名、34 課題、海外病研究部 12 名、16 課題、免疫研究部 25 名、26 課題、生産病研究部 21 名、15 課題、安全性研究部 21 名、20 課題、プリオン病研究センター 24 名、16 課題、生物学的製剤センター 21 名、3 課題、北海道支所 11 名、12 課題、九州支所 9 名、13 課題、七戸研究施設 7 名、7 課題であった。

## 平成 14 年度第 2 回支所長会議の概要

平成 14 年度第 2 回支所長会議が平成 15 年 2 月 18 日（火）の午前 9 時 30 分～午後 2 時にかけて当所大会議室において開催された。本会議には寺門理事、清水所長兼企画調整部長、斉藤総務部長、水野総合防疫研究官、山本疫学研究部長、山口感染症研究部長、横溝免疫研究部長、福所海外病研究部長、井上生産病研究部長、三浦安全性研究部長、品川プリオン病研究センター長、徳久生物学的製剤センター長、加藤北海道支所長、平九州支所長、成田七戸研究施設長、村上（洋）研究企画科長、濱岡研究交流科長、壽情報資料課長、上田衛生検査科長、横木実験動物管理科長、村上（賢）主任研究官、廣田庶務課長、中村会計課長、沢里庶務課長補佐、大橋会計課長補佐が出席した。その概要は以下の通りである。

寺門理事より独立行政法人化に伴った研究所を巡る状況の変化、平成 15 年度の研究予算の状況、平成 15 年 10 月における農業技術研究機構と生物系特定産業技術研究機構との合併に向けての動き等の概略が説明された。斉藤総務部長より平成 15 年度合理化減及び予算概要、平成 14 年度補正予算等について報告がなされた。清水所長より企画調整部関係報告及び協議事項並びに今後の研究評価等の予定が示された。その後、各研究部長、センター長、各支所長、七戸研究施設長より平成 14 年度試験研究成績・計画検討会の状況及びその評価結果概要についての報告が行われた。

# 平成 14 年度動物衛生試験研究推進会議の概要

標記会議が平成 15 年 2 月 19 日(水)に動物衛生研究所大会議室において開催された。

## 本会議

本会議における参集者所属部局(人数)は以下の通りである。

共立製薬株式会社つくば中央研究所(評価委員; 1)、茨城県畜産センター(評価委員; 1)、農林水産省農林水産技術会議事務局研究調査官(1)、農林水産省経営局保険監理官室家畜指導班(1)、農林水産省生産局畜産部衛生課(1)、農林水産省動物検疫所(1)、農林水産省動物医薬品検査所(2)、中央農業総合研究センター(1)、畜産草地研究所(1)、北海道農業研究センター(1)、東北農業研究センター(1)、近畿中国四国農業研究センター(1)、九州沖縄農業研究センター(2)、農業生物資源研究所(1)、食品総合研究所(1)、農業環境技術研究所(1)、国際農林水産業研究センター(1)、家畜改良センター(1)、肥飼料検査所(1)、北海道立畜産試験場(1)、栃木県県央家畜保健衛生所家畜衛生研究部(2)、群馬県家畜衛生研究所(1)、岡山県家畜病性鑑定所(1)、鳥根県立家畜衛生研究所(1)、沖縄県家畜衛生試験場(2)、(社)農林水産先端技術産業振興センター-農林水産先端技術研究所(2)、農業技術研究機構(1)、動物衛生研究所(20)。以上 52 名。

検討の概要は以下の通りである。

## 1. 動物衛生試験研究をめぐる情勢

動物衛生研究所企画調整部長から、動物衛生試験研究をめぐる情勢として、(日)食の安全・安心と動物衛生、(月)最近の動物衛生問題、特に国内における日和見感染症、複合感染症及び生産病等の蔓延、国外からの国際重要伝染病の侵入脅威、E 型肝炎、山羊関節炎・脳脊髄炎、鳥インフルエンザ、西ナイルウイルス感染症などの新興疾病の発生等、(火)動物衛生試験研究の重点化方向、(水)動物衛生研究の推進方策、特に複雑化した衛生問題解決のため産学官連携協力の重要性、(木)プリオン病研究の取り組み、特にプリオン病研究センターの設置、施設整備及び平成 15 年度プロジェクト研究の取り組み等を説明し、討論が行わ

れた。

## 2. 動物衛生に係わる今後の試験研究の方向について

動物衛生研究所の研究部長から、疫学研究、感染症研究、海外病研究、免疫研究、生産病研究、安全性研究の各分野の重点化方向と推進方策が報告され、討論後承認された。

## 3. 平成 16 年度プロジェクト研究の課題化に向けた重要問題の検討

動物衛生区分における重要検討課題として、海外病研究部長より、(日)家畜重要感染症の新たな感染・発病制御技術に関する基盤的研究、七戸研究施設長より、(月)環境保全型畜産・放牧の衛生管理と診断予防技術の高度化、安全性研究部長より、(火)飼料・家畜・畜産物におけるマイコトキシンの汚染実態と影響に関する研究の 3 課題の説明があった。これらの課題の重要性が説明され、平成 16 年度プロジェクト研究への課題化に向け重点的に検討することを決定した。

## 4. 動物衛生試験研究に係わる要望事項とその対応

農林水産省動物検疫所から提出された要望事項に対し、動物衛生研究所企画調整部及び関係研究部長等から対応方針の概要が説明され、関連討議を経て対応方針の理解を得た。要望事項;(日)診断液等が整備されていない監視伝染病等の病性鑑定体制の整備、(月)診断液等の安定的供給及び(火)家畜衛生分野における危険度評価手法等の推進について。

## 評価企画会議

本会議に引き続き評価企画会議が開催された。参集者所属部局(人数)は以下の通りである。

共立製薬株式会社つくば中央研究所(1)、茨城県畜産センター(1)、農林水産省農林水産技術会議事務局研究調査官(1)、農林水産省経営局保険監理官室家畜指導班(1)、農林水産省生産局畜産部衛生課(1)、農林水産省動物検疫所(1)、農林水産省動物医薬品検査所(2)、畜産草地研究所(1)、北海道農業研

究センター(1)、東北農業研究センター(1)、近畿中国四国農業研究センター(1)、九州沖縄農業研究センター(2)、農業生物資源研究所(1)、農業環境技術研究所(1)、国際農林水産業研究センター(1)、家畜改良センター(1)、肥飼料検査所(1)、北海道立畜産試験場(1)、栃木県県央家畜保健衛生所家畜衛生研究部(2)、群馬県家畜衛生研究所(1)、岡山県家畜病性鑑定所(1)、島根県立家畜衛生研究所(1)、沖縄県家畜衛生試験場(2)、(社)農林水産先端技術産業振興センター農林水産先端技術研究所(2)、農業技術研究機構(1)、動物衛生研究所(20)。以上50名。

検討概要は以下の通りである。

### 1. 平成14年度動物衛生試験研究主要研究成果の検討、評価、採択

平成14年度の主要研究成果として、事前検討を経た下記27課題が提出され、その内容が報告された。次いで、質疑と評価が行われ、一部の課題については、表題、本文、図表等の修正が求められた。なお、修正の是非、主要成果の決定に関しては動物衛生研究所に一任された。

平成14年度動物衛生試験研究成果情報掲載候補課題

- 1) 北海道全域から分離した牛乳房炎由来 *S. aureus* の毒素遺伝子および発現毒素
- 2) 全国の牛放牧場の実態調査(2000年)
- 3) 体細胞クローン牛の病理
- 4) *Streptococcus suis* 溶血素遺伝子領域が水平伝播した証拠
- 5) 効果の高い組換え伝染性ファブリキウス囊病ワクチンの開発
- 6) 国内分離ニューカッスル病ウイルスの分子疫学的解析
- 7) 高生物活性を有する組換え馬インターフェロン $\gamma$ の作製
- 8) *in situ* hybridizationによるウマヘルペスウイルス1型遺伝子検出法の確立
- 9) ネオスポラの免疫組織化学的診断の高度化
- 10) 山羊関節炎・脳脊髄炎の病理組織学的診断指標
- 11) 口蹄疫ウイルスに対する市販消毒薬の効果判定

- 12) 日本で分離された口蹄疫ウイルス 0/JPN/2000株の動物に対する病原性
- 13) カイコを宿主とした豚インターロイキン18蛋白質の大量生産系の確立
- 14) 昆虫細胞には哺乳動物と同様の糖鎖合成系が存在する
- 15) ヨーネ病診断用抗原製造用候補菌株の作出と免疫学的及び遺伝学的解析
- 16) フタル酸エステルが牛の卵巣顆粒層細胞および卵子に及ぼす影響
- 17) 牛ブドウ球菌性潜在性乳房炎に対する rboGM-CSF の治癒効果
- 18) 初代培養肝細胞を用いたダイオキシン型毒性物質のバイオアッセイ法
- 19) 豚リンパ組織におけるサイトカイン遺伝子の発現
- 20) 粗飼料の給与は牛の腸管出血性大腸菌 0157 の排菌を抑制する
- 21) 我が国初発の牛海綿状脳症(BSE) 牛の脳の変異分布および異常プリオン蛋白質の蓄積分布
- 22) 異常プリオン蛋白質を分解する新規酵素
- 23) 組換え VspA 蛋白質を用いたマイコプラズマ・ボビス感染症の防除
- 24) 乾乳開始時における組換えウシインターロイキン-8の乳槽内投与が乳タンパク質組成および体細胞数に及ぼす影響
- 25) 小型ピロプラズマ病の貧血発生時には赤血球への自己抗体付着と酸化が起こる
- 26) 牛胎子の腸管リンパ組織における抗原提示細胞の形態的及び機能的特性
- 27) B群ロタウイルス抗体検出法の開発とその利用

### 2. 重要課題の研究推進戦略に関する総括

平成14年度動物衛生試験研究推進会議本会議において、動物衛生区分における重要検討課題として、(a)家畜重要感染症の新たな感染・発病制御技術に関する基盤的研究、(b)環境保全型畜産・放牧の衛生管理と診断予防技術の高度化及び(c)飼料・家畜・畜産物におけるマイコトキシンの汚染実態と影響に関する研究の3課題を決定したことの経緯と報告がありました。



## 平成 14 年度動物衛生研究所評価委員会の開催

平成 14 年度動物衛生研究所評価委員会が、平成 15 年 3 月 18 日（火）に動物衛生研究所大会議室において開催された。平成 14 年度の評価委員会委員として、（有）アニマル・メディア社 ピッグジャーナル誌 岩田寛史編集長、北海道大学大学院獣医学研究科 小沼 操教授（評価委員長）、（社）中央畜産会 鎌田啓二常務理事、農林水産省生産局畜産部衛生課 栗本まさ子薬事室長、全国家畜衛生職員会長 谷川昂史会長、（株）日本全薬工業 福井邦顕代表取締役社長並びに厚生労働省国立医薬品食品衛生研究所 山本茂貴食品衛生管理部長（五十音順）の 7 氏を迎え、動物衛生研究所の研究及びその他の業務全般にわたり評価を受けた。動物衛生研究所からは、寺門農研機構畜産研究担当理事、清水所長、斉藤総務部長、水野総

合防疫研究官、山本疫学研究部長、山口感染症研究部長、横溝免疫研究部長、福所海外病研究部長、井上生産病研究部長、三浦安全性研究部長、品川プリオン病研究センター長、徳久生物学的製剤センター長、加藤北海道支所長、平九州支所長並びに成田七戸研究施設長が、また事務局として、村上研究企画科長、村上研究企画科主任研究官、濱岡研究交流科長、壽情報資料課長、上田衛生検査科長、横木実験動物管理科長、廣田庶務課長並びに中村会計課長が出席し、関連事項の説明及び質疑応答を行った。評価結果とその対応は、平成 14 年度動物衛生研究所評価委員会報告として取りまとめられる予定である。

（研究企画科）



## 第 29 回豚の繁殖衛生セミナーの開催

第 29 回豚の繁殖衛生セミナーが、群馬県家畜衛生研究所のお世話で、平成 14 年 9 月 5 日～6 日、群馬県富士見村赤城山の赤城緑風荘において開催された。今回は、国公立および民間の試験研究機関や大学から 34 名が参加した。一般演題 12 題に加え、1 題の特別講演が行われた。演題および発表者は次のとおり。

- (1) 無精子症を呈した雄豚の精液性状の経過  
伊藤 米人（東京都畜産試験場）
- (2) 種雄豚の顆粒球形肉芽腫（緑色腫）を疑う症例  
樋口 明宏（群馬県家畜衛生研究所）ほか
- (3) 豚凍結精液の利用において雌ブタへのホルモン処置が受胎率に及ぼす影響  
藤野 幸広（埼玉県農林総合研究センター 畜産支所）
- (4) 深部注入型カテーテルを用いた豚の人工授精による受胎性と産子状況  
伊東 正吾（麻布大学）ほか
- (5) ミニチュアブタにおける Diethylstilbestrol および Estradiol Benzoate 投与が母体および産子に及ぼす影響  
中澤 京子（東京農業大学）ほか
- (6) 黒豚における黄体数、産子数、生体体重  
安田 研（鹿児島県畜産試験場）ほか

- (7) 特別講演 豚胚の非外科移植について  
米村 功（鳥取県中小家畜試験場）
- (8) 完全合成培地によるブタ体外成熟卵子の体外受精および体外培養  
吉岡 耕治（動物衛生研究所）ほか
- (9) ブタ初期胚の体外発生におけるグルタミン、ハイポタウリン、タウリンおよび BSA の影響  
鈴木 千恵（動物衛生研究所）ほか
- (10) 耳翼皮膚由来の体細胞クローン豚の作出  
河原崎 達雄（静岡県中小家畜試験場）ほか
- (11) 分娩時間に及ぼす要因分析  
今枝 紀明（岐阜県畜産研究所）ほか
- (12) 豚繁殖呼吸障害症候群（PRRS）に関する研究  
中根 崇（千葉県畜産総合研究センター）
- (13) 一養豚場における離乳後無発情豚の卵巣診断  
岩村 祥吉（動物衛生研究所）ほか

今年度は、つくばから離れた開催となったが、セミナー会場と宿泊が同一場所であったこともあり、それぞれの講演中に加え、講演後においても活発な意見交換や情報交換がなされた。次回は、初夏のころに動衛研で開催することが了承された。

（生産病研究部臨床繁殖研究室長 岩村 祥吉）